

特集：若手技術者交流会（2023年度）

若手技術者交流会の役割と期待

交流推進委員会 委員長
梅田 博之



建築研究開発コンソーシアムでは、会員企業・団体の次世代を担う年齢層の技術者を対象とした「若手技術者交流会」を毎年開催しています。この交流会は、会員の皆様のご協力により、会員が保有している研究所や工場、展示施設などの現地見学会と、参加者同士でのグループ討議をセットにした内容となっており、参加者の方々の新たな知見の習得と、継続的な交流促進のきっかけになることを目的としています。

2009年度からスタートしてからこれまで15回、48の会員企業・団体から延べ278名の方に参加いただきました。参加者アンケートでは、毎回満足度の高い意見が多く寄せられておりますので、今後もより意義のある交流会となるよう改善を図りつつ、引き続き開催して参りたいと思っております。

正会員限定ではありますが、幅広い業種・分野の方に集まていただくよう、1会員から単独参加を原則とさせていただきます。会員の皆様におかれましては、今後を期待している若い技術者の方への知的創造力やコミュニケーション力の活性化と、新たな人脈を形成していただくことを期待して、積極的に参加者の派遣をお願いいたします。

交流会の新たな取り組み ～即興ディベート～

若手技術者交流会小委員会 主査
田村 俊樹



若手技術者交流会は、①建築関連の同業種・異業種の若手の人脈形成、②社外・同年代の若手の交流による刺激、③社内外協働の企画・運営の経験等を狙いとして、施設見学、グループ討議（即興ディベート、グループディスカッション）、懇親会から構成される、若手技術者を対象とした人材育成の活動です。

グループ討議の新たな試みとして、「即興ディベート」に2021年度より取り組み、改善を続けてきています。討議の結果や達成感が欲しい、一方で、事前準備は少ない方が良い、等の意見に応えるための試みです。本年度の参加者アンケートには、即興ディベートについて「一緒にやり切ることで、参加者どうしの距離が縮まった」「チームでの検討や発表時の発言内容、話し方から、お互いの価値観や人柄が把握できて良かった」「自身の考えを即座に分かる言葉で表現する力の重要性に気付けた」といったコメントが寄せられています。討議の達成感のみならず、交流促進の効果もより大きくなり、様々な気付きも増えているようです。

若手技術者交流会は、参加者から好評で毎年参加されている会社も多い一方で、参加されたことのない会社もいらっしゃいます。是非、より多くの皆さまが参加を検討いただけますよう、お願い申し上げます。

2023年度若手技術者交流会(第15回)プログラム

回	年月日	場所	予定時間	内容
1	2023.09.01	BHCJ講演室+WEB併用 (晴海トリトンスクエアZ棟4階)	15～17	オリエンテーション 参加者の自己紹介 グループ討議の説明等
2	2023.10.13	①ミサワファクトリー名古屋 (愛知県江南市)	14～17 17～18	施設見学 討議・意見交換 懇親会(自由参加)
3 関西地区 (1泊2日)	2023.11.16	②免震研究推進機構	13～14	追加(施設見学) 施設見学
		③防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター (兵庫県三木市)	14～17 17～18	
	(宿泊先は各自手配)			
	2023.11.17	④セキスイハイム工業近畿事業所 (奈良県奈良市) ⑤大阪ガスハグミュージアム (大阪市西区)	10～12 12～14 14～16	施設見学のみ 昼食(各自)移動 施設見学のみ (現地解散)
4	2023.12.8	⑥竹中技術研究所 (千葉県印西市)	14～17 17～18	施設見学 討議・意見交換 懇親会(自由参加)
5	2024.01.12	⑦URまちとくらしのミュージアム (東京都北区)	14～17 17～18	施設見学 討議・意見交換 懇親会(自由参加)

2023年度参加者の所属(会員名)

会員名		(会員名50首順)
1	奥村組	11 大成建設
2	熊谷組	12 大和ハウス工業
3	建材試験センター	13 竹中工務店
4	建築研究所	14 田島ルーフィング
5	佐藤工業	15 チヨダウーテ
6	清水建設	16 日建設計
7	新菱冷熱工業	17 長谷工コーポレーション
8	住友林業	18 パナソニックホームズ
9	積水化学工業	19 防災科学技術研究所
10	積水ハウス	20 ミサワホーム

若手技術者交流会の実施内容紹介（2023年度）

◆趣旨・目的

次世代を担う会員の若手技術者の知的ネットワーク構築を目的として「若手技術者交流会」を開催しています。この交流会は、コンソーシアムが様々な業種の会員によって構成されているという特徴を活用して、特に若手技術者の交流を通じて、新しい技術創造の一助になることを期待しています。

◆実施概要

「若手技術者交流会」は、見学会とグループ討議を主体として行うことにより、他分野の情報に触れる機会を設けることで、メンバーの知的好奇心を刺激し、会員の活力の源となる技術者の育成を兼ねる手段として実施しています。

グループ討議は「即興ディベート」を行っていますが、当日にディベートテーマを提示することで、事前準備の負担をかけず、また、グループ内で意見をまとめるには必然的にコミュニケーションを取る必要があり、自然と交流も図れるよう設定しています。第1回のオリエンテーションは、会場とオンライン併用開催とし、2回目以降の各見学先では、会場幹事が設定した懇親会も自由参加で実施し、フリートークもできる時間も設定して、交流を深められるプログラムとしています。

◆即興ディベート

ディベートは一つのテーマに対して、自身の意見とは関係なく与えられた立場（肯定側か否定側）で議論し、第三者への説得力の高さを競うものです。決められた時間配分で立論、質疑、反駁、最終弁論を行い、勝敗を決めます。そのため、チーム内の協力が必要な上、参加者の様々の考えがわかります。肯定側5人と否定側5人に分かれ、その他の参加者が司会とタイムキーパー、議事録、審判を行い、参加者全員で実施します。同席する委員も審判に参加しました。20分で戦略を練り、44分間で立論や質疑などをします。初めは時間を余らせることもありましたが、回数を重ねることで、展開方法や時間配分も考慮でき、個人的なことで時間を繋ぐなど、最終回では時間いっぱい議論するようになりました。最後に参加者および委員からの講評を受けることで、勝敗で終わることなく、結果の共有も図るプログラムとしています。



即興ディベートテーマ 一覧

回	テーマ名	勝利
1	「在宅勤務を主として続けるべきである。是か否か」	否定側
2	「老後は田舎に住むべきである。是か否か」	否定側
3	「研究職採用者は、1年以上現場経験（又は営業経験）をすべきである。是か否か」	否定側
4	「一戸建てとマンションでは、どちらが住みやすい。一戸建てかマンションか」	一戸建て

◆見学会

①「ミサワファクトリー名古屋」では、ミサワホームの構造部材である「木質パネル」が、施工ごとに1枚ずつ生産されるラインを見学しました。②「免震研究推進機構」では、国内初の「実大免震試験機（E-アイソレーション）」を見学、③「兵庫耐震工学研究センター」では、「実大三次元振動破壊実験施設（E-ディフェンス）」を見学しました。E-ディフェンスで実施した迫力ある実験映像を見たあと、実際の振動台に乗り、地下ピットに入り間近で機構を見学し、それを動かす油圧源棟も見学しました。④「セキスイハイム工業近畿事業所」では、セキスイハイムのユニット構造を、自動溶接ロボットが行い、流れるラインで部品が取付けられる様子を見学しました。⑤「大阪ガスハグミュージアム」では、「ちょっとミライの暮らし」のモデルハウスなどを見学しました。⑥「竹中技術研究所」では、室内音場や広視野角視覚のシミュレータ体験、建物を支える地盤挙動を評価する「遠心模型実験室」などを見学しました。⑦「URまちとくらしのミュージアム」では、UR都市機構が取り組んできたまちづくりの変遷を4面の大迫力のスクリーンで体感、「同潤会代官山アパートメント」や「晴海高層アパート」の復元住戸などを見学しました。



ミサワファクトリー名古屋 [E-ディフェンス]ピット内 URまちとくらしのミュージアム



集合写真（兵庫耐震工学研究センターにて）

◆懇親会

1回目のオリエンテーションはコーヒブレイクでの最初の交流をし、その他の回では、見学先の会員参加者が幹事となり、すべての回で懇親会を実施し、交流を図りました。



参加者アンケート結果(感想・コメント紹介)

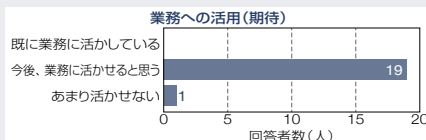
(全体総評)

・これまでほとんど同業種の若手技術者と知り合う機会がなかったため、参加者と複数回にわたって交流ができ、仕事のことからプライベートなことまで様々な話ができることがよかった。



(業務への活用)

・同業・同年代のメンバーとのコミュニケーションは、業務のモチベーション向上に役立ったと思う。



(即興ディベートについて)

・ディベートは、他メンバーの性格や考え方を知れ、相互理解が深まった。また、メンバー間の協力が必要だったため、仲が深まり、その後の会話のきっかけにもなったと感じた。



1. 分野・業種連携人材育成事業

2023年度は「研究開発人材育成プログラム」の5日間コースを2回、合計28人の受講者の参加により実施した。プログラム内容は、先輩研究者による講義「私の研究開発履歴書」、村上特別顧問講義、国の建築行政、MOTの紹介及びマーケティング（行動観察によるイノベーション創出）の講義とグループワーク等を行った。グループワークでは、昨年度同様、オンラインホワイトボードを共有しながら、参加者全員で議論する場となるよう実施した。

また、研究開発人材育成プログラムの2本柱となるMOT半日コースを、オンライン併用で、合計69名の受講者の参加により実施した。いずれも受講者の評価も高く、好評であった。



2. コンソ・プラザ

先端分野の動向等会員にとって興味ある有益なテーマ、トピックスに関する情報の共有や交換の場を設け、会員の交流を促進し研究会の発足等に繋げることを狙いとして開催した。

①一般講演会

会員への情報提供の一環として、タイムリーなテーマと講師を選定し5回開催した。参加者は延べ170名で、参加充足率（参加者/募集数）は50%であった。具体的には「関東大震災の真相：被害と復興から学ぶ地震防災（名古屋大学/武村雅之氏）」、「脱炭素化に貢献ウッドサイクルで【街を森にかえる】（住友林業株式会社/中嶋一郎氏）」、「建築の明日へー希望を耕すための要点を考えるー（早稲田大学/松村秀一氏）」、「南極昭和基地での越冬体験/（ミサワホーム株式会社/秋元茂氏）」、「視野を広げる『デザイン思考』～既成概念を打ち破り新たなビジネスを創造する～（株式会社インクルーシブデザインソリューションズ/井坂智博氏）」の5テーマ。

②建築研究所による講演会

国立研究開発法人建築研究所の建築研究報告等の講演会を報告書等の発表に合わせて4回開催した。参加者は延べ110名で、参加充足率は59%であった。具体的には「建築分野におけるドローンの社会実装に向けた産官学連携の取り組み」、「トルコ・シリア地震災害調査報告」、「BIM技術の既存建築物への利用拡大に向けた調査研究」、「建物への木材利用促進と火災安全性の両立に関する近年の取り組み」の4テーマ。



第1回建研講演会（宮内博之氏）



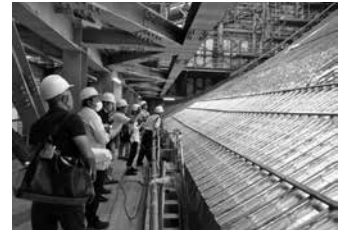
第3回一般講演会（松村秀一氏）

③見学会

話題性のある施設を選定し4回開催した。参加者は延べ80名で、参加充足率は100%であった。具体的には「住友林業株式会社 筑波研究所 新研究棟」、「比叡山 根本中堂 改修現場」、「セキスイハイム工業株式会社 東京事業所」、「東京ポートシティ竹芝」の4か所。



第1回見学会
（住友林業株式会社 筑波研究所 新研究棟）



第2回見学会
（根本中堂 改修現場）

④テクニカルフォーラム

今年度は具体的な提案がなく開催されなかった。

3. 研究企画ミーティング

国立研究開発法人建築研究所 環境研究グループによる「住宅・建築物のカーボンニュートラルの推進」というテーマで2回実施した。第1回（6/19）では、①「住宅・建築物のカーボンニュートラルを進める上での課題の整理」、②「カーボンニュートラルに向けた東京ガスの取組」の話題提供がされた。第2回（9/27）では、③「三菱電機が目指すカーボンニュートラル実現に向けた家庭用設備を活用した再エネソリューションの提案」、④「ミサワホームのカーボンニュートラルへの取り組み」の話題提供があった。

発表に関する質疑応答、参加者との意見交換を行い、研究会立ち上げに向けた意見交換やその進め方について話し合った。その後、研究会を立ち上げ、活動を開始している。



4. 研究会

研究会については、継続23テーマに新規5テーマを加えた計28テーマを実施した。新規テーマのうちアイデアコンペから成立した研究会が2テーマ、研究企画ミーティングから成立した研究会が2テーマ、会員からの提案で成立した研究会が1テーマであり、その成立過程や研究内容も多岐にわたり、研究活動が活性化した。

5. 研究助成制度

研究助成制度は、研究推進活動の一環として、社会的ニーズに対応した会員間の研究の一層の促進を図ることを目的に、「小規模建築物の造成地盤の施工条件と圧縮沈下リスクの関係性に関する実験的研究」、「工事現場における溶接・溶断火花による火災を防ぐためのパンフレットの作成」、「住宅気密試験事業者に対する非住宅系建物の気密化に関する意識調査及び米国の気密化施工の情報収集」、「巨大地震等対応防災拠点建築物集積エリア計画実現に関する研究」、「ミリ波・テラヘルツ波計測技術と物性測定」の5件を採択し、合計で約400万円の助成を行った。

6. JIS原案作成対応

JIS A 1310：2019建築ファサードの燃えひろがり試験方法（2019年2月制定）の改正のため、当コンソーシアム内に2023年4月にJIS原案作成委員会を設立した。5月に第1回本委員会を開催し、6、9、10月に分科会を開催して審議を進め、11月の本委員会で取り纏めを行った。原案作成共同事業を契約している日本規格協会へ原案を2024年2月に提出し、JIS発行手続きを進めている。

2023年度 建築・住宅技術アイデアコンペ(第21回)

2023年度アイデアコンペは、9件の応募があり、2024年1月22日(月)の1次審査会(査読結果審議他)、及び同2月16日(金)の2次審査会(プレゼン他)を経て、最優秀賞1件、優秀賞1件、審査員特別賞2件、佳作2件が選定されました。審査会終了後に懇親会も開催されました。



前列：左から、柳橋インキュベーション委員会委員長、澤地会長
後列：左から、春樹氏、相馬氏、宇佐美氏、小原氏、内村氏、松氏



左側：最優秀賞受賞者(株)フジタ 小原氏
右側：澤地会長

賞	提案タイトル(代表提案者)
最優秀賞	建築資材マネジメントシステムの構築と規格化 [小原 泉氏 株式会社フジタ]
優秀賞	透明材料を用いた制震壁の開発 [宇佐美 徹氏 株式会社竹中工務店]
審査員特別賞	CO ₂ 吸収・固定材料の定量的な値を表示するガイドラインの構築 [内村 陽介氏 大和ハウス工業株式会社]
	「やわらかい木」の曲線を活かした木質構造躯体の開発 [相馬 智明氏 大成建設株式会社]
佳作	CLTによる低層パネル構造のプレハブ化 [春城 芳英氏 GA設計事務所]
	木造軸組の倒壊防止となる充填断熱の開発 [松 俊彦氏 KMTX株式会社]



分野・業種連携人材育成事業募集のご案内

建築研究開発コンソーシアムでは2013年度より新規事業として、研究開発に従事されている方で担当者レベルからマネージャーに進む段階の方の人材育成を目的として、「分野・業種連携人材育成事業」を立ち上げ、実施して参りました。

「MOT半日コース」「5日間コース」ともに、毎回、大変高い評価を頂いており、2024年度も引き続き実施して参ります。今年度は下表の通り開催予定で、ただいま参加募集中です。

	MOT半日コース	5日間コース	
		1回目	2回目
定員	40	15	15
募集締切	4/12	4/26	
開催日	5/17	6/7	9/6
		6/21	9/20
		7/5	10/4
		7/19	10/18
		8/2	11/1

▲共に申込先は下記のとおり
建築研究開発コンソーシアム事務局
人材育成プログラム担当 鶴巻 E-mail: human@conso.jp

功労賞授賞式

当会の表彰制度規定に基づき、コンソーシアムの委員会活動にご尽力をされるとともに、コンソーシアムの活性化に多大なご貢献をされた個人の中から功労者を選出しております。

2023年度は、鈴木康嗣氏(国立研究開発法人防災科学技術研究所(元 鹿島建設(株)))がコンソーシアム連絡担当者会議の場で表彰されました。



鈴木 康嗣氏
(国研)防災科学技術研究所

新会員紹介

準会員

- 倉敷紡績株式会社
代表者：藤田 晴哉
所在地：大阪府大阪市中央区久太郎町2-4-31
- 旭有機材株式会社
代表者：中野 賀津也
所在地：東京都台東区上野3-24-6
- 一般財団法人日本溶接協会
代表者：粟飯原 周二
所在地：東京都千代田区神田佐久間町4-20

CBRD News Letter 52号

発行日：2024年3月31日
編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会
発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階
TEL: 03-6219-7127 FAX: 03-5560-8022
E-mail: conso@conso.jp(代表) Home Page: https://www.conso.jp/